

小規模保育室 自己評価の報告書

ゆうか さいち保育室

<評価項目と取り組み状況>

<教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画 こども園として特に配慮すべき事項 >
・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等

→ICT 教材コドモンの活用をし、子どもたちの成長を記録していくことで、1年を通して一人ひとりの成長過程を大切に見守っていききたい。引き続き、職員で意見交流を行い、よりよい環境設定をしていきたい。

→年2回のチェックリストを活用し、職員自身が保育を見直す機会を設けている。

個別の面談やグループごとの会議を行い、記録を通して共有し保育室全体で認識できるよう心がけていきたい。

→保育室を、食事/遊び等で環境構成を見直し、子どもたちの成長に働きかけやすいようにしていきたい。

<健康支援>

→「学校安全計画」に基づき、園医の検診や毎月の身体計測を行い子どもたちの健康管理に努め、計測時や日々の保育の中で、自らの心と体に興味関心が持てるよう年齢に応じた保健指導に取り組んだ。

その中で、手洗い、消毒については、保育生活の中で身につけられるよう継続して個別に指導してきた。今年度は感染症の流行が数回あり、衛生面向上にむけ職員で話し合いを重ね、より徹底して取り組むよう努めた。

<安全管理>

→毎月の安全点検を行った。危険箇所や修繕必要箇所は、協力会社と連携し、迅速に安全管理に努めた。

→毎月の避難訓練では、様々な災害事案に対応できるよう取り組んだ。また、子どもたちの安全を守るためには、職員同士の連携が必須となるため、新しい職員を含めいつ何時、誰が対応しても滞りなく行えるようにしていきたい。

→戸外の安全対策として、避難車の停留所の変更、フェンスに固定ベルトを設置する等の対応をした。

<食育の推進>

→まずは、食に対して前向きな気持ちで進められるよう、食べたいものを満足するまで食べることを大切にされた。食の好みが出てくる時期ではあるが、様々な食材に触れられるよう、色や触感、味など多角的な視点から子どもたちの興味関心に刺激をしながら、「食べてみよう」という気持ちを引き出せるような援助を心がけている。

→子どもたちに人気のメニューを再度提供できるよう、栄養士と意見交換をしている。また、子どもたちの食事に対する意欲の変化を見落とさないよう、家庭との連携を大切にしている。

<子育て支援> ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等

→送迎時には、保護者と密にコミュニケーションをとるようにしている。毎日の出来事や子育ての悩み等、保護者の方に寄り添い、園での様子を丁寧に伝えながら子どもたちの成長を一緒に見守っていくという気持ちで取り組んでいる。

→地域との交流や子育て支援というものは現在実行できていないが、散歩へ出かける際には、保育者が見本となり挨拶することを大切にしている。

<保育内容> ・養護・健康・人間関係・環境・言葉・表現

→年間計画を基に、個々の成長に沿って援助を工夫している。今後も集団での活動はあるが、決して無理強いせず意思を尊重しながら、前向きな気持ちで活動に取り組めるようにしていく。

<特別支援教育>

→巡回相談で、個別の支援や友だち関係の中で育つ視点からの支援のあり方について指導、助言を得られた。引き続き、ご相談させていただきながら、子どもにとっての最善の保育を模索していきたい。
→食育に関するご相談もさせていただき、ご家庭への支援に加え、職員一同の知識を深める機会にもなった。

<職員の資質の向上>

→『人権擁護のためのセルフチェックリスト』を取り入れ、自身の子どもへの関わりを振り返った。子どもの気持ちを尊重した保育であるかどうか、職員間で見つめ直す機会となった。コドモンでの研修動画等を活用しながら、現状に満足せず、時代に合った保育ができるよう、自己研鑽の時間も大切にできるよう工夫していきたい。

<関係者評価の取り組み>

→保護者アンケートの結果から、園内で評価と課題について話し合い、次年度の園運営のあり方、保育の方向性等を検討する手がかりとしている。今年度、園に求められていることを知ることができた。次年度の参考にしていきたい。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

<言葉の重要性>

→乳児保育をする中で、保育者のボキャブラリーを向上させる必要性を痛感している。言葉一つで伝わり方/受け取り方は、一人ひとり異なるため、目の前の子どもが何に困り感を感じているのか熟考し、気持ちに寄り添い、代弁し、前向きな気持ちに向けられるよう努めていきたい。そのためにも、様々な援助の仕方を身につけられるよう、一人で考えるだけで留めるのではなく、保育者同士で意見交流をすることで、より一層知識として深められるようにしていきたい。

<職員の資質向上>

→保育の振り返りを日頃から行い、子どもたちにとって最善の保育ができているのか検討することを大切にしていきたい。また、保護者支援において、各ご家庭の意向や状況を踏まえ、同じ方向を向いて子どもたちの成長を見守っていきけるよう、毎日のコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いていきたい。

2026年3月31日
ゆうか さいち保育室
室長 鳥井 薫